

こんにちは♪ 暑いですね！ でも、いよいよ夏休みですね♪ 今年はまるっきりの空梅雨で、梅雨が梅雨らしくなく、ほとんど雨が降らなかったのも、雨の苦手なせーやさんもそれほどユーウツにならずにすんだのでした。ですが、こんなにも雨が降らないとさすがに心配になってしまいますよね。7月の頭から猛暑日ですし。でも、夏休みです！ あ、今年も図書館の紫陽花はキレイに咲いていますよ♪

さて先日、芥川賞と直木賞の発表がありました！ **なんと両賞ともに受賞作がありませんでした！** そんなこともあるのですね。両賞ともになしは、実に 27 年ぶり。6 回目なのだそうです。せっかくの目玉商品がなくなってしまうって、書店は大打撃ですね。というわけで、今号の図書館通信は芥川・直木賞特集号ではなく、前半はいつも通りオススメ本を、後半は読書感想文の紹介をします！

オススメ本紹介！

『近畿地方のある場所について』 背筋 KADOKAWA

『変な家』に続いて、いよいよ「あの本」が映画化！

「私の友人が消息を絶ってしまいました。その情報を提供していただきたいのです」。年下の友人の小川くんが、出版社に就職し、オカルト雑誌を刊行している部署へと配属になった。初仕事に懸ける熱意から、彼はその雑誌のバックナンバーをすべて読もうと試みる。すると、少なからぬ数の怪談記事や事件ルポに、近畿地方のとある地域が登場していることに気づいてしまう。ネットで検索しても、むやみにたくさん。これは「本物」ではないか。やがて、彼は失踪してしまう…。この本は、彼が近畿地方のある場所●●●●●について書かれたものをまとめた本だ。これでもかというほどに怖い話が山のように詰め込まれている。そして、まったく別の話だと思っていたそれぞれの話がつながっていると理解したとき、あなたはもう引き返せないところまで来てしまったことに戦慄することでしょう。冒頭の話は「おかしい書き込み」。動画の無料転載をするアダルトサイトの誰も利用しないコメント欄に、女優宛に「お山にきませんか。かきもあります」という書き込み。いたずらで住所を尋ねると、●●●●●。地図アプリで検索すると、古びた神社だった。しばらくして、「こしいれせよ」という書き込みが…。

『奇のくに風土記』 木内 昇 実業之日本社

本草学とは、「薬用に重点^{おぼらとうどう}をおいて、植物やその他の自然物を研究する学問。本草学者の小原桃洞のもとで学ぶ十兵衛は、草花とは自在に語らうことができるのに、人と接すると上手く言葉を交わすことができない。だから、あまり人と交わらず、暇さえあれば、野や川辺を歩いては草木を愛でていた。いずれは桃洞のように草木に親しみながら一生を送りたいと強く願っている。そんな十兵衛が禁断のお山に足を踏み入れた。町では見られぬ本草を持ち帰って師とじっくり語らいたいと望んだからだ。お山に入り、道を見失いそうになると、天狗^{てんぎやん}に「おめには、おらが見えるか」と驚かれた。天狗はそこらじゅうに普通にいるものだが、ほとんどの者には天狗の姿を目にすることは叶わないのだという。そして、見る人によって、姿が変わる。十兵衛には、こんまい童^{わらわ}のように見えた。おめは「うつつの者」だが、おらたちに近い種かもしれんのと天狗は言う。「なしてここへ来た」と聞かれるので、この山に棲む珍しい草木を持ち帰りたいのだと正直に答えた。すると、楠^{くすのき}にまとわりついていて定家葛^{てい か かずら}が、十兵衛の左腕にくると巻きついてきた。どうやら、気に入られたらしい…。

『ネコは（ほぼ）液体である ネコ研究最前線』

服部 円 子安ひかり 監修 KADOKAWA

「ネコ沼、知るほどに抜けられなくなる」。

イグ・ノーベル賞をご存知でしょうか？ ノーベル賞のパロディーとして、「人を笑わせ、考えさせる」ような研究に贈られる賞です。この本のタイトルは、イグ・ノーベル賞を受賞した「ネコは液体である」という研究にちなんでつけられています。土鍋にぴったりと丸まっていたり、とても入れそうもないビンにすっぽり収まってしまっていたり、ネコを飼っている人にとっては、当たり前の実感なんですけどね。

この本は、世界中の研究者たちが書いた「ネコ研究」の論文をまとめた本です。主立ったものが39編もセレクトされています。

「飼い主の声が分かるし、自分の名前を知っている」「こっちがご機嫌だと寄ってくる！ 飼い主の感情を読むネコ」「ネコ語を翻訳できる人はいるのか？ 鳴き声実験で検証」「ゴロゴロは『ご機嫌』だけじゃない 隠されたメッセージ」「ネコと仲良くなる魔法！ ゆっくりまばたきの秘密」「ネコがマグロを好きな理由、遺伝子に刻まれていた」「食べもの vs.オモチャ vs.ヒトネコが選ぶのはどれ？」「ネコはなぜ狭い所が好き？ 段ボール箱がストレス軽減」「『がんばった後のご飯はうまい』はネコにはなかった」などなどなど。科学的に検証します。

読書感想文課題図書

『銀河の図書室』 名取佐和子 実業之日本社

『ほんとうの幸い』って、何だろう？

県立野亜高校の図書室で活動し、宮沢賢治を愛し、宮沢賢治を研究する「イーハトー部」w は、弱小同好会だ。どれくらい弱小かというと、実際に活動している部員が2年生のチカひとりしかいない。本当は3年生にもひとり、この同好会の発起人にして部長、精力的に部を牽引していた風見さんがいた（ビブリオバトルの大会でも賢治の『風の又三郎』で優勝している）のだが、去年の秋に「ほんとうの幸いは、遠い」というメッセージを残して、まったく学校に来なくなってしまったのだ。あとは、あの先輩なくして、自分ひとりでは部を存続できないから、仮入部でいいから入ってくれと泣きついた友人のキョンヘが仮入部でいるだけだ。年度初めの部活動勧誘の結果、賢治大好きな女子がひとり入ってくれたが。イーハトー部のメンバーは、なぜ風見部長が突然学校に来なくなってしまったのかを、賢治の残した作品や言葉、なにより未完の大傑作『銀河鉄道の夜』を読みとくことで、追いかけていく。やがて、それぞれの「ほんとうの幸い」と出会う…。

『「コード」のぼくが見る世界 聴こえない親のもとに生まれて』 五十嵐 大 紀伊国屋書店

みなさんは「コード」という言葉をご存知でしょうか？「耳が聴こえない、あるいは聴こえにくい親のもとで育った、聴こえる子どもたち」のことを意味するのだそうです。映画『ぼくが生きてる、ふたつの世界』が話題になりましたが、まだまだマイノリティであると言えるでしょう。著者の両親は耳が聴こえず、ろうの両親のもとで育てられた著者は、コードなのです。

「いつも、ひとりぼっちだった」。2021年に出版され映画化された本と比べると、読後感がだいぶ明るく感じられます。社会が変わってきてるせいでしょう。マイノリティを差別しないようにという姿勢は、確実にコードに対しても普及してきていて、コードをテーマにした優れたエンタメもいくつも創られるようになりました。スマホのビデオ通話機能を初め、テクノロジーの進化は、いままでろうの人々にはできなかったことを次々と可能にしています。「コードにやさしい世界」になってきているのです。この本には希望を強く感じます。

「もしも両親の耳が聴こえていたら……なんて想像することすらないくらい、ぼくは、ろう者である両親が大好きだ。だから、そのままでいてもらいたい」。

『夜の日記』 ヴィーラ・ヒラナンダニ 作品社

ニューベリー賞オナー賞受賞作！

「ママに日記を書くのは夜がいちばん。だれにもじゃまされないから」。

ヒンドゥー教徒の少女・ニーシャーは、12 年前、双子の少年・アーミルとこの世に誕生するのと引き換えに、イスラム教徒だった母を喪った。誕生日に料理人のカジから日記帳をもらった。それは、ニーシャーにとって、最高のプレゼントだった。ニーシャーは話すのが苦手で、身内としかほとんど話ができないのだ。

「話すのはこわい。ことばがいちど外に出たら、もう口のなかにひっこめられないから」。話すより書く方がずっと好きな彼女には日記が向いていた。時は、祖国であるインドがイギリスから独立しようとしているときだった。独立は達成されたが、ヒンドゥー教徒はインド、イスラム教徒はパキスタンに分断されてしまった。いままで暮らしていた場所はパキスタンとなり、そこでは暮らせなくなってしまったヒンドゥー教徒のニーシャーとその家族は、長い旅に出ることになる。この本は、ニーシャーが亡き母に向けて自分の思いを綴った日記である。

「いまはほんとうにお話のなかにいるみたい。こんな話、いろいろ聞いたことがある。服と食べものだけせおって、戦争で故郷から逃げた人たちの話。いまはわたしたちがその人たちだ。じっさいには起こっていないけど、戦争みたいなものだと思う。うその戦争みたい。わたしがふみだす一步一步に実感がない。足が地面にふれていないみたいで、自分が自分のからだのなかにはいないみたい」。

お知らせ

◎夏休みのあいだじゅう好きなだけ本が借りられます！

◎夏休みの図書館は、8/7（木）から8/18（月）までのあいだお休みします。

————— すてきな夏休みを。夏休みも図書館でお待ちしています♪
では、図書館で。